
真(チェンジ！！)偽書ゲッターロボダークネス！～招かれた最強の戦士！～

ジンオウガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真（チェンジ！！）偽書ゲッターロボダークネス！〜招かれた最強の戦士！〜

【Nコード】

N3276Y

【作者名】

ジンオウガ

【あらすじ】

何時ものように学校から帰ろうとしていた竜馬は穴に落ち、そして落ちた所は変わり果てた東京であった……

初の偽書ゲッターロボダークネスを小説化！主人公はもちろん『バカとテストと真ゲッターロボ』の竜馬です！竜馬はそこで何を見て、何を思うのか？そして、真の名を持ち最後のゲッターロボを操り、ゲッターロボダークネスと共に謎の生命体アイデアと壮絶な死闘が開幕する！

エピソード1：招かれた最強（前書き）

最初の話です！見てくれるとありがたいです！

エピソード1..招かれた最強

明久

「んじゃまたね竜馬！」

竜馬

「じゃあな明久！いい加減まともな物食えよ！」

オッス！読者の奴ら！久しぶりだな！俺は流竜馬！覚えているかどうかわからねえが『バカとテストと真ゲッターロボ』での主人公だ！なんでお前知ってんだよってツツコミは無しな、俺だって知らん！（ドヤ顔で言うな！（作者））

ん？なんか作者の声が聞こえたがまあ良いか！それはともかく、今学校でちょうど明久と別れた所だ。

竜馬

「さあてと、帰ったら何すっかなあ？どうせ今日から一年間は親父達が旅行で居ねえからなあ」

実は、今日の朝久しぶりに帰って来た親父がいきなり『滞！今までほったらかしていた分の埋め合わせをしたいから旅行行くぞ！』とかぬかして母さんも嬉しそうな顔をして頷いていたんだが、その旅行券が船で世界一周でしかもたったの三人しか行けないので俺は留守番をする羽目になったのだ。

竜馬

「ハァーひまあとりあえず、帰ったら作りかけのハロでも作るか」

俺はため息を吐き出しながら歩を進めたその時――

パカッ…………

竜馬

「……………パカッ？」

なんか開いたような音が聞こえたので何だと思い、下を見るとなんか穴が開いていた…………って！？

竜馬

「どわあああああ！？」

そんなもって、俺は穴の中に落っこちた。

◇

ピューーー…………ドッテンツ！

竜馬

「ムギユツ！？」

穴に落っこちてから数分後、地面に叩きつけられた。

竜馬

「痛ってえゝひったく、なんだってんだよ」

痛めた背中をさすりながら起き上がって見ると、そこにはとんでもないくらいに原型が保たれていない街が広がっていた。

竜馬

「なっ……！おいおい、これは一体どうなっているんだよ！？」

よく見ると向こうに東京タワーが見えるのでここが東京だって事が分かるが、周りのビルは禍々しい生物のような物が生えていた。

竜馬

「何だっただよ。こんな禍々しい物が生えている所が東京だって言うのかよ……」

だが、こいつが現実だって事は分かっている。そう思いながら、俺は鞆から俺特性“超魔改造リボルバーG”を取り出し、そして、リボルバーG専用の弾丸を三発入れる。ちなみに、こいつの他にも昨日徹夜して完成させたレアメタル製コンバットナイフ（小太刀版）が入っている。

竜馬

「とりあえず、人を探してみるか……」

俺はそう言ってホルダーにリボルバーGをしまい、コンバットナイフを腰に差して歩き始めた。

竜馬

「しかし、なんだ？この気持ち悪い生物みてえのは……」

歩きながら俺は周りを見ながらそう言っていると何処からか悲鳴が聞こえた。

竜馬

「ッ!?! こっちか!」

俺は悲鳴の上があった場所に走り、そして着いてみるとそこには血溜まりに倒れている軍服を着た男と二体のバケモノがいた。

バケモノ 1

『なんだあ? まだ人間がいたのか?』

バケモノ 2

『まあいい、“ズジ”様の領地に入った人間は女以外皆殺しだ!!』

そう言っバケモノ達は俺に向かって来たが、俺はホルダーからリボルバーGを取り出し、バケモノの一体にリボルバーGを発砲する。

ズトオンッ!!

バケモノ 1

『グギヤアッ!?!』

放たれた弾丸はバケモノに当たり、転したところを俺はもう一体のバケモノに近づき、コンバットナイフを取り出す。

バケモノ 2

『なっ!?! は、早……』

ズバアッ!!

バケモノ 2

『……い……ガア……』

竜馬

「遅せえんだよ雑魚が……………」

バケモノの首を切り裂き、コンバットナイフに着いた血を持っていた紙で拭き取り、投げ捨てて倒れて虫の息のバケモノを踏みつけりボルバーGを突き付ける。

竜馬

「さあてと、テメエには聞きてえ事がある……………」

バケモノ1

『な、何なんだ貴様……………』

竜馬

「テメエらが言っていたズジってえ奴は何処にいる？言わねえんならテメエのどたまに穴空けるぞ？」

俺はそう言っバケモノを脅す。

バケモノ1

『ヒイツ！？あ、あっちのビルのホストクラブにいる！だから命だけは！？』

竜馬

「そうか……………ありがとうさん」

俺はそう言っバケモノから足をどけ、背を向けて歩き始める。

バケモノ1

『っは！バカが！！』

バケモノは起き上がろうとするが……

ズトオンッ！！

ドサア……

竜馬

「馬鹿はテメェだ雑魚……」

リボルバーGでバケモノのどたまを打ち抜き、バケモノが倒れた後俺はバケモノの言っていたズジって野郎がいるビルに向かって歩き始めた。

エピソード1..招かれた最強（後書き）

次回！エピソード2..現れしゲッターロボダークネスと真の名を持ちし最後のゲッター！お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3276y/>

真(チェンジ！！)偽書ゲッターロボダークネス！～招かれた最強の戦士！～

2011年11月7日22時08分発行